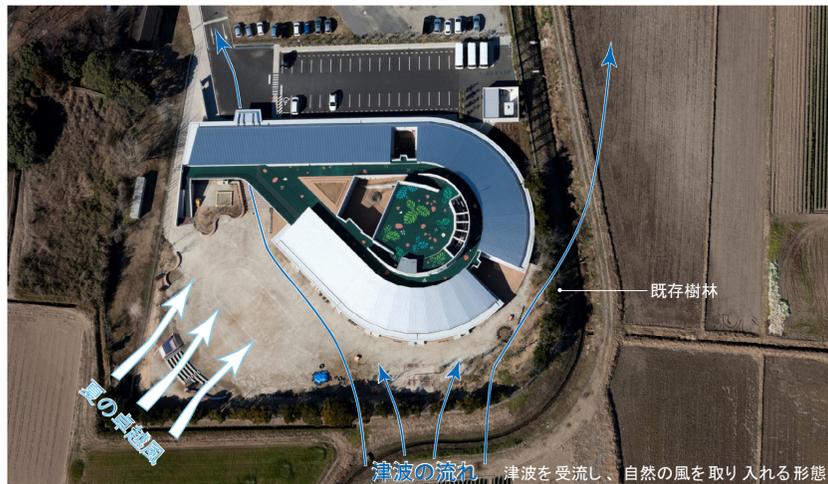


# 山武市立しらはたこども園

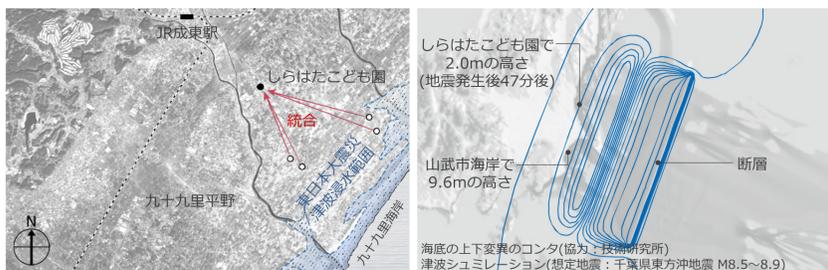


海岸から5 kmに位置する敷地周辺には、屋敷林が点在する田園風景が広がる



## ■地域統合の核となる津波防災に対応したこども園

本プロジェクトは、海岸から5.6 kmの内陸部に園児や関係者の安全を確保し、地域の緑に溶け込み、自然風を取り込むよう計画したこども園である。

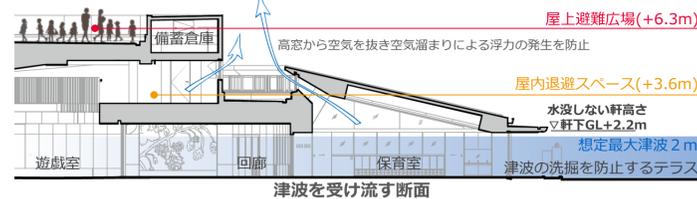


### 幼児一元化の取組み

山武市は、東日本大震災による津波被害を機に、沿岸部の4つの幼児施設を内陸部にこども園として統合した。

### 津波シミュレーションに基づいた計画

千葉県東方沖において最大の地震が発生した場合、敷地には2.0mの津波が47分後に到達する結果に基づき計画している。



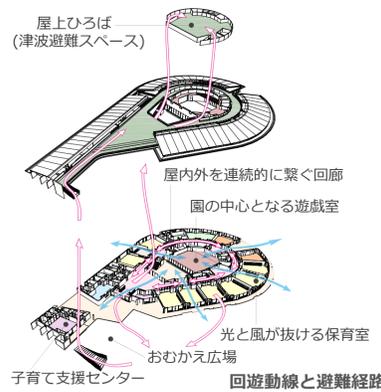
津波を受け流す断面

## ■子どもたちの創造性を育む内外が連続する回遊性

遊戯室を囲むように保育室と半屋外空間を配置し、行き止まりのない回廊で繋いだ。回遊性と連続性がある園舎では、日々の活動の中で自然に異年齢児の出会いが生まれ、先生と子どもたちが伸び伸びと活動できる。屋外階段で繋がれた立体的な回遊線は、施設のごく近所でもスムーズに避難できる経路として機能している。



屋上ひろば



## ■子どもたちの活動を促す既存の景観保全した園庭

敷地外周の既存樹を保存活用し防風対策をおこなうと共に、建設残土を利用して築山や海側外周部にマウンドをつくり、津波の浸水を遅らせる機能も持つ。

した落葉樹や実のなる果樹を新植をおこない、築山には滑り台や階段を組み合わせたランドスケープと一体の遊具を設置する事で、子供たちが喜ぶ園庭を創作した。

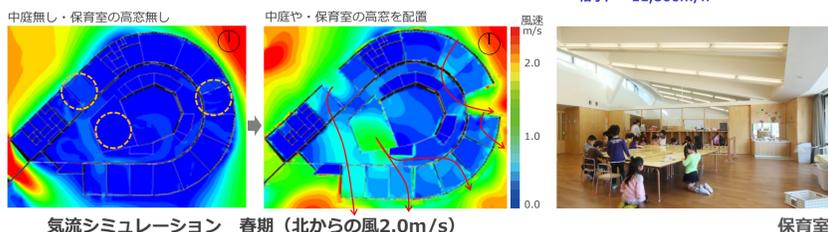
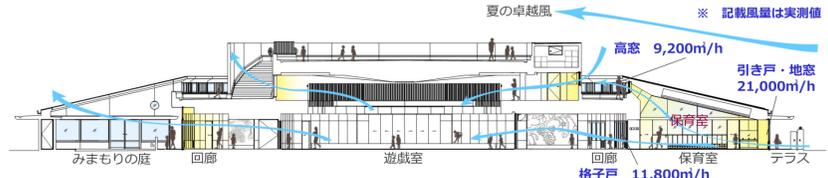


敷地外周の保存林と遊具一体の築山

## ■風が抜け、間接光を取り入れるのびやかな施設

自然の風を最大限取り込むために、シミュレーション解析を行い3か所の中庭を配置した。園庭側は地窓、回廊側の引き戸は格子戸を組み込むと共に、開閉のできる排煙窓兼用の高窓を設け、保育室だけでも風が通る構造とした。

保育室だけでも風が通る構造とし、60回/h程度の換気量を実測にて確認している。



気流シミュレーション 春期(北からの風2.0m/s)

保育室



中庭 光と風の通り道となる



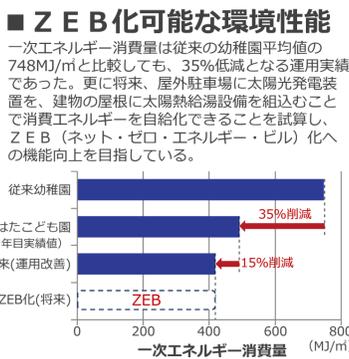
既存樹に囲まれた園庭 建設残土を利用した築山や海側外周部のマウンドは津波の浸水を遅らせる機能も持つ



遊戯室 様々な方向に視線と風が抜け、2階の観覧スペースは津波避難時の屋内退避スペースとなる

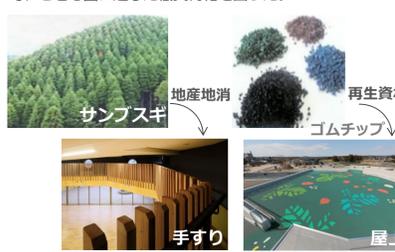
A. 性能(達成)	Form	01審美感	02親和性	03独創性	04象徴性	05完成度
		2	2	2	2	2
B. 機能(技術)	Technology	06機能性	07効率性	08利便性	09安全性	10先進性
		2	1	2	2	2
C. 社会(環境)	Environment	11環境負荷	12資源消費	13地域連携性	14ユニバーサル	15先進性
		2	1	2	2	2
D. 経済(LCC)	Life Cycle Cost	16インフラコスト	17ランニングコスト	18維持管理	19耐久性	20LCC
		2	2	1	2	2

A. 性能(達成)	Form	01審美感	02親和性	03独創性	04象徴性	05完成度
		2	2	2	2	2
B. 機能(技術)	Technology	06機能性	07効率性	08利便性	09安全性	10先進性
		2	1	2	2	2
C. 社会(環境)	Environment	11環境負荷	12資源消費	13地域連携性	14ユニバーサル	15先進性
		2	1	2	2	2
D. 経済(LCC)	Life Cycle Cost	16インフラコスト	17ランニングコスト	18維持管理	19耐久性	20LCC
		2	2	1	2	2



## ■地元産材や再生資材の活用

遊戯室2階の手摺に特産のサンプスギを使用し、地元産材や再生資材の活用を推進している。



## ■地域交流の中心となる施設

併設の子育て支援センターを中心として、おむかえ広場やベンチによりコミュニケーションが活発化し、施設が統合された地域の融和を促している。



おむかえ広場